
夢ヲ歩ク

賽乃目祀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢ヲ歩ク

【Nコード】

N2738BA

【作者名】

賽乃目祀

【あらすじ】

夢は繋がる。

互いの思いに感応して。

少女・窓付きが、青年・くいつきの夢を歩いて感じとるのは……？

夢は繋がる（前書き）

前作とは文法が変わっています。
楽しんで頂けたら幸いです。

夢は繋がる

「先生、ピアノ弾いて」

三つ編みの少女が、言った。

「良いですよ。何を弾きましよう?」

先生と呼ばれた黒づくめの男性は、少女に聞いた。

「何でもいいよ」

「分かりました。では、窓付きさんの好きな曲を」

そう言くと、先生はゆったりとしたメロディを奏で始めた。

窓付きと呼ばれた少女は、部屋の中央のテーブルへ向かい、椅子に座った。

「窓付きってば、我が物顔ね。他人の家なのに」

そう言いながら、窓付きの向かいの椅子に座った白い肌の黒髪少女に、

「モノ江だって人の事言えないじゃん」

と、窓付きが突っ込みを入れる。

黒髪の少女・モノ江は、わざと聞こえないふりをした。

「あなたも、こちらへ来られてはいかがですか?」

ピアノを弾きながら、先生が部屋の入口に向かって声をかけた。
少しの間の後、

「……………いい」

と、声が返ってきた。

「そうですか」

先生はそれ以上何も言わず、静かなメロディを奏で続けた。
代わりに窓付きが喋る。

「何も無いけど、ゆっくりしてね」

するとまた、数秒の間を置いて、

「……………ああ」

とだけ返事が返ってきて、会話が終了してしまった。

先生の奏でるピアノの音色だけがしばらく部屋に響いたところで、
「しかし、あれよね。ほんと物好きよね」

唐突にモノ江が口を開いた。

それに窓付きが反応する。

「何が？」

「あなたじゃないわよ」

言ってモノ江は、今度は後ろを見て言った。

「あなたの事よ。くいつき」

そこにいたのは、青い髪と包帯が目立つ青年だった。

くいつきと呼ばれた青年は、黙ってモノ江を見た。

モノ江は気にせず続ける。

「毎日毎日飽きもせずに、この世界に来るんだもの。あなたにも、

あなたの世界があるんじゃないの？」

モノ江はどこか呆れたように言う。

世界とは、夢の中の世界の事である。

意味はそのまま、モノ江達がいるのは、窓付きの夢の世界。また、

モノ江や先生は窓付きの夢の世界の住人なのだ。

「普通なら、窓付き以外の人間がここに来る事なんて有り得ないの

よ？ましてやあなたたち、現実で会ったことすらないんでしょ？ま

すます有り得ないわ」

『あなたたち』の所で、窓付きとくいつきを交互に見ながらモノ江

は言った。

くいつきは何も答えない。

「まあでも、楽しいし良いんじゃないかな？」

空気に耐えかねた窓付きがそう言うと、モノ江は大きなため息を吐

いた。

「…もういいわ。真面目に言った私が馬鹿だった」

その言葉に、窓付きがムツとして言い返す。

「私だって真面目に言ったよー！」

「はいはい」

「もー！」

「あなたは牛なの？」

「違うよっ！」

と、窓付きとモノ江が数回言葉を交わすと、急にピアノのメロディが止まった。

窓付きとモノ江が同時に先生を見ると、先生はピアノの上にある窓を見上げている。

「どうしたの先生？」

窓付きが近づいて聞くと、先生は、

「いえ…外の様子が、なんだかおかしくて……」

「外？」

言われて外を見ると、いつもは星空が見えるはずなのに、真っ暗になっている。

「さっきまでは、ちゃんと星が見えていたのに……」

先生が不思議そうに言う。

「出してみよっか」

窓付きが言うと、

「私も行くわ」

「……俺も行く」

モノ江とくいつきも名乗り出た。

「危険だと思ったら、すぐに戻ってきて下さいね」

「分かった！」

先生の言葉に元気よく返事を返すと、窓付きはゆっくりと部屋の扉を開いた。

夢は繋がる（後書き）

続きます。

この回は繋ぎの回で、次からがお話としては本編となります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2738ba/>

夢ヲ歩ク

2012年1月6日23時46分発行